

■佐佐木信綱 歌人・国文学者。青年期に歌壇の革新を図った後、長寿を保ち、万葉集はじめ歌学史で大きな貢献。

ささきのぶつな

学問のすすめ1872 = 三重県鈴鹿で、国学者佐佐木弘綱の長男に生まれる。

明治6年政変 1873 = 1歳：

三つの反乱・1876 = 4歳：早くも、万葉集、山家集の暗誦を始め、
西南戦争・・1877 = 5歳：一家で松阪へ移り住む。短歌の実作を始める。

明治14年政変1881 = 9歳：
新体詩抄・・1882 = 10歳：上京し、高崎正風に和歌を学ぶ。

秩父事件・・1884 = 12歳：東京大学古典科国書課に入学、
その講師となった父の教育を受けて、

初の対等条約1888 = 16歳：卒業。
帝国憲法発布1889 = 17歳：
帝国議会始・1890 = 18歳：父が、万葉集・八代集などを初めて活字化した「日本歌学全書」の編纂を手伝い、
足尾鉋毒始・1891 = 19歳：父の死去後、引き継いで完成させ、共著で刊行するとともに、卒業。

日清戦争始・1894 = 22歳：

白馬会・・・1896 = 24歳：以後5年の間に、唱歌「夏は来ぬ」を作詞・発表。
八幡製鉄始・1897 = 25歳：歌人としては、落合直文・与謝野鉄幹らと{新詩会}をおこして、歌壇の革新をはかり、
子規句歌革新1898 = 26歳：*{竹柏会}を組織し、機関誌{心の花}を創刊して、以後、指導につとめる。
Bushidou・・1899 = 27歳：

短歌・新体詩・唱歌などの創作にも力を入れ、

日比谷公園・1903 = 31歳：第一歌集「思草」刊行。中国に遊学、
日露戦争始・1904 = 32歳：上海で作った名刺がきっかけで「佐佐木信綱」と名乗るようになる。
日露戦争終・1905 = 33歳：東京帝国大学講師となり、
「万葉集」の研究、和歌・歌学の史的研究・校訂・評釈・外国語訳などに多くのすぐれた業績を残す。また
古本類を多数発見し、それをもとにテキストを作成、学界へ大きな貢献をする。

アヲヲ 創刊・1908 = 36歳：

韓国併合・・1910 = 38歳：「日本歌学史」、

明治天皇没・1912 = 40歳：本郷西片町(文京区)に移り住む。第二歌集「新月」刊行。

21ヶ条要求・1915 = 43歳：「和歌史の研究」で、

ロシア革命・1917 = 45歳：*帝国学士院恩賜賞。

原敬首相暗殺1921 = 49歳：

護憲三派圧勝1924 = 52歳：翌年にかけて、「校本万葉集」刊行。

円本時代始・1926 = 54歳：
金融恐慌・・1927 = 55歳：「新訓万葉集」刊行。

満州事変・・1931 = 59歳：東京帝国大学講師はこの年まで続いた。
五一五事件・1932 = 60歳：還暦記念として、故郷に{石薬師文庫}を寄贈、

帝人疑獄事件1934 = 62歳：学士院会員、
芥川直木賞始1935 = 63歳：

日中戦争始・1937 = 65歳：第一回文化勲章を受章。芸術院会員となり、

日米開戦・・1941 = 69歳：

年金+総武装 1944 = 72歳：熱海の{凌寒荘}に疎開し、そのまま移住。
敗戦・・・1945 = 73歳：

極東裁判決・1948 = 76歳：「佐佐木信綱全集」全16巻の刊行が開始されたが、

独立回復・・1951 = 79歳：第9歌集「山と水と」刊行。

TV放送始・・1953 = 81歳：7巻で中絶。「ある老歌人の思ひ出」を刊行して、
TV宇宙中継始1963 = 91歳：{凌寒荘}で没した。

平凡社百科事典、インターネット「佐々木信綱記念館」ホームページほか、